

# さくら教室だより

カラー版は九小のHPで公開しています。



令和7年6月18日  
東久留米市立第九小学校  
校長 山本 真美 枝  
特別支援教室 担任



## 1学期も折り返しが過ぎました



6月も半分過ぎました。6月は祝日のない月です。大きな行事もなく、学校生活も単調になりがちです。そんなときこそ基本に立ち返り、児童の「わかった!」「できた!」が実感できるような授業を実践していくことで、児童の学校生活を充実できるように努めていきます。



### <個人面談が始まっています>



今週から、個人面談が始まっています。保護者の皆様にはご多用にもかかわらずご出席いただきありがとうございます。

今年度からの新たな試みとして、個人面談で保護者の皆様にお見せしている【連携型個別指導計画】の確認印をなくしました。

【連携型個別指導計画】は、①さくらの担当 ②学級担任 ③学校長 ④保護者 の4者で確認して作っていくものです。児童の退室に向けたイメージを共有し、計画的に指導を行うための書類ですので、いつでもそこに立ち返ることができるように、面談後、コピーを青ファイルの裏表紙に貼ってあります。また、前期末(10月頃)に、その目標をどれほど達成しているのかの評価も3段階で出します。何か疑問などがありましたら、何でもご質問ください。



### 〇梅雨の時期のお願い

梅雨時は汗をたくさんかく季節です。清潔を意識して過ごすことができますといいですね。



清潔なハンカチか汗拭きタオルを持ち歩き、汗をかいたらしっかり拭きましょう。汗をそのままにすると体が冷えたり、べたべたしたりといいことなし!



脱ぎ着しやすい服で体温調節しましょう。朝夕はまだ気温が下がりがちです。上手に気温の変化に対応できるといいですね。



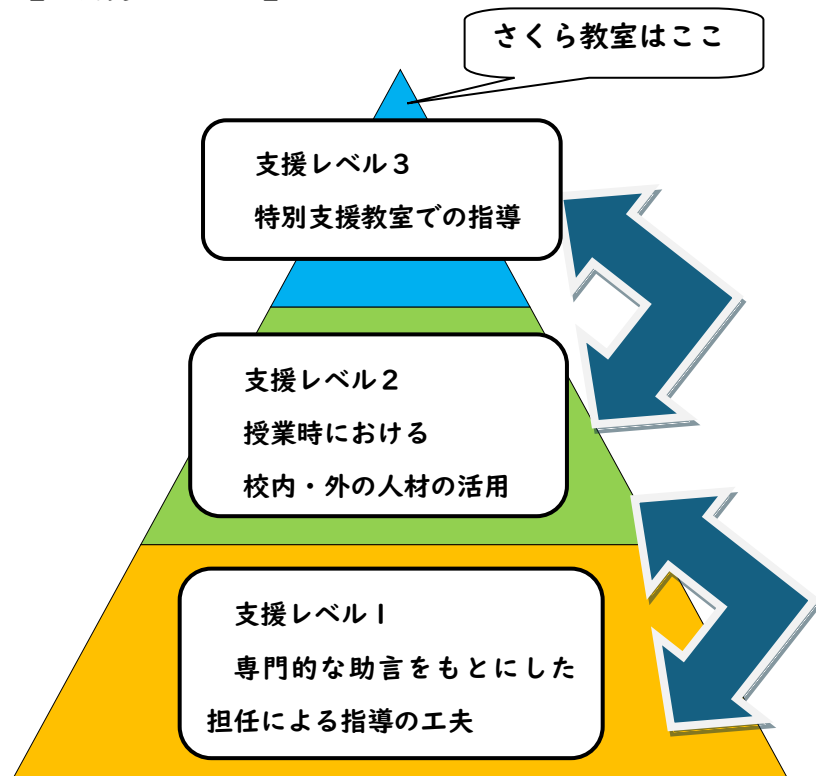
肌着を着て、汗を吸収してもらいましょう。肌を清潔に保つことができるので、肌着はぜひ着てきましょう。

## 【さくら教室のちょこっとコラム】 退室の話

さくら教室で力をつけたあと、どのような流れで退室にいたるのか、まとめました。  
参考：東京都教育委員会 HP「特別支援教室の運営ガイドライン」（アクセス：2024/06/04）



### 【支援レベル】



東京都では、児童の支援の段階を3つのレベルに分けています。レベル1は【心理士などの助言をもとにした担任による指導や教室環境の工夫】、レベル2は【担任以外の人材に支援が必要なおきをお願いする】、そしてレベル3が【特別支援教室での指導】です。

この3つのレベルの支援を段階的に行っていき、レベル2でも改善が見られないと、初めてさくら教室などの特別支援教室での指導が検討されます。また、逆に入室当初の課題の改善が見られた場合は、支援レベルの引き下げもあります。

### 【東久留米の特別支援教室(さくら教室)の指導期間】

東久留米では、最長2年間で必ず全員がさくら教室を退室することになっています。ちなみに、年度途中から入っても1年と数えます。（例：4月に入っても、12月に入っても1年間とみなされます）

支援レベルが3から2になったと判断されたときは、退室の話を学校から提示しています。

もちろん、退室後に同様の生活上・学習上の課題が見られるようになった場合は、再入室することも可能です。ただ、再入室するには、3か月間のインターバルが必要です。



保護者の方に退室を提案する前に、校内で会議を開いています。管理職、さくら教員、担任、生活指導主任、特別支援コーディネーターなどで慎重に学校での様子を話し合っています。また、退室後の様子や支援方法についても随時、情報を共有していきますのでご安心ください。